

# 平成26年深谷市教育委員会第9回定例会会議録

深谷市教育委員会

## 平成26年深谷市教育委員会第9回定例会

日 時	平成26年9月12日(金)
	開 会 午後 1時30分
	閉 会 午後 3時00分
場 所	教育委員会 3階 大会議室
出席委員	委 員 長 西 倉 郁 夫 委員長職務代理者 柿 沼 敬 一 委 員 井 上 美佐子 委 員 清 水 巖 教 育 長 小 柳 光 春
出席職員	教 育 部 長 澤 出 晃 越 次 長 植 竹 敏 夫 次 長 片 桐 雅 之 教 育 総 務 課 長 葦 塚 洋 明 教 育 施 設 課 長 吉 田 稔 学 校 教 育 課 長 白 井 裕 一 生 涯 学 習 課 長 岡 田 真 文 化 振 興 課 長 鳥 羽 政 之 図 書 館 長 栗 田 理 一
書 記	教 育 総 務 課 石 川 雅 一 課 長 補 佐

## 1 開会

委員長が開会を宣告

## 2 前回議事録の承認

第8回定例会の会議録を全員異議なく承認。

## 3 会議録署名委員の指名

委員長が井上委員（3号委員）及び清水委員（4号委員）を指名。

## 4 会議の概要

### (1) 会議

- ① 報告1 深谷市教育委員会後援に関する事務取扱要綱に基づく承認について  
教育総務課長より説明
- ② 報告2 小・中学校及び幼稚園における放射線量測定結果について  
教育施設課長より説明
- ③ 報告3 平成26年度「夏休み子ども英会話体験教室」について  
学校教育課長より説明
- ④ 報告4 平成26年度「こころざし深谷科学塾」について  
学校教育課長より説明
- ⑤ 報告5 平成25・26年度深谷市研究委嘱について  
学校教育課長より説明
- ⑥ 報告6 平成26年度全国学力学習状況調査の結果（速報）について  
学校教育課長より説明
- ⑦ 報告7 平成26年度深谷市夏季休業中の研修について  
学校教育課長より説明
- ⑧ 報告8 幼稚園教諭の保育園体験研修について  
生涯学習課長より説明
- ⑨ 報告9 平成26年8月末現在の児童生徒の事故等について【非公開】  
片桐次長より説明
- ⑩ 報告10 平成26年8月深谷市立小・中学校教員等の発令について【非公開】  
片桐次長より説明
- ⑪ 報告11 平成26年度埼玉県立近代美術館コレクション展 in 深谷について  
文化振興課長より説明
- ⑫ 報告12 東京オリンピック・パラリンピックバレーボール競技のキャンプ地としての誘致活動について  
生涯学習課長より説明
- ⑬ 議案第40号 教育委員会事務局の職員の懲戒処分について【非公開】  
教育部長より説明
- ⑭ 協議事項1 子ども・子育て支援新制度に係る深谷市の幼稚園保育料（案）について【非公開】  
教育総務課長より説明

## 発言の要旨

① 報告1 深谷市教育委員会後援に関する事務取扱要綱に基づく承認について  
委員長 事務局より説明を求めます。

教育総務課長 (概要を説明)

委員長 本報告について、質疑はありませんか。  
(質疑なし)

② 報告2 小・中学校及び幼稚園における放射線量測定結果について  
委員長 事務局より説明を求めます。

教育施設課長 (概要を説明)

委員長 本報告について、質疑はありませんか。  
(質疑なし)

③ 報告3 平成26年度「夏休み子ども英会話体験教室」について  
委員長 事務局より説明を求めます。

学校教育課長 (概要を説明)

委員長 本報告について、質疑はありませんか。  
(質疑なし)

④ 報告4 平成26年度「こころざし深谷科学塾」について

委員長 事務局より説明を求めます。

学校教育課長 (概要を説明)

委員長 本報告について、質疑はありませんか。

井上委員 今年から載せていただいた感想録を読みました。その内容ですが、科学そのものについて身近な体験をした喜びはもちろんです。が、「中学生がリーダーとして小学生との絆ができた」という意見や、「人を集め、意見を出し合うことで、1人では気付けなかった新たな発見ができ、より正解に近づけた」という意見や、4年間参加した中学3年生の科学に対する情熱的な意見など、非常に素晴らしいと思いました。

是非この事業の対象人数の枠をもう少し広げていただいて、こういう体験を沢山させていただけると、深谷の子ども達の科学に対する気持ちが将来に渡って引き継がれていくのかなと、この感想を見て感じました。

学校教育課長 井上委員のおっしゃるとおり、科学好きの子ども達がコミュニケーションを図って、絆を作ることができたということが、一番の成果だと考えています。理科離れを防ぐために、仲間を大事にして、自分だけではなく、理科に興味がある子ども達を周りにも増やしていくと気持ちが育った、という風に捉えてい

ます。また、科学好きの子ども達を増やすために、去年・今年に引き続き、来年度も充実させるように取り組んでいきたいと思いをします。

- ⑤ 報告5 平成25・26年度深谷市研究委嘱について  
委員長 事務局より説明を求めます。  
学校教育課長 (概要を説明)  
委員長 本報告について、質疑はありませんか。  
(質疑なし)

- ⑥ 報告6 平成26年度全国学力学習状況調査の結果(速報)について  
委員長 事務局より説明を求めます。  
学校教育課長 (概要を説明)  
委員長 本報告について、質疑はありませんか。  
井上委員

報告7の平成26年度深谷市夏季休業中の研修報告のなかの小学校・中学校の算数科などの教科についての研修報告に、全国学力調査に関する研修内容が入っていますけれども、そこに教員の感想として、授業で発問の仕方も意識して行うことが重要だとか、板書計画を考えていかなければいけないなどが出てきます。やはり日々の授業における発問、板書、ノートの記録の仕方などを研修の中で徹底して行い、それを日々の授業に活かしていかないと、B問題への対応が良い方向に進まないのではないかと思います。

また、先生方がどのようにやっているか疑問に思ったのですが、領域の系統性を分かって日々やっているのか、その場その場の領域だけを教えているのか、そこのところをもう少し、教員として、例えば、小学校1年生、2年生、この場合には2年生でどのように発展していくのか、2年生から3年生でどのように発展していく領域なのかということをおわかって指導に入っているのか、その辺が、感想を見て、ちょっと甘いように感じました。

だから、板書の問題、発問の問題、ノートの記述の問題、それから領域の系統性ということをおきちっと押さえて日々授業に臨まない限りは、いくら努力しても良い方向の改善は望めないのではないかと、ということで、その辺のご指導を委員会としての管理職の教頭さんを含めてやっていけばもうちょっと上がっていくのではないかと感じています。

- 学校教育課長 井上委員のご指摘いただいたとおりのものを我々も捉えています。特に、授業というのが、子ども達の学習意欲を高めるためにも非常に重要なものです。そのなかで、板書の工夫、発

音の工夫、魅力ある授業を各教員が意識して作り上げていく、そのような気持ちを教師が持つというようなところを研修でも行いました。

また、領域の系統性についてですが、小学校でしたら低・中・高学年と繋がる教材や指導方法を各学校で工夫する必要があります。さらに、深谷市では、幼・小・中、特に小・中の各領域の中での系統性を作るために、各小・中学校の先生が話し合っ、小・中連携のカリキュラムを各教科で作っていただいているところです。今後も、各領域の系統性を大切にして、研修会のほうも工夫していきたいと思ひます。

柿沼委員  
学校教育課長

花園中学校の成績がよい理由は何ですか。

花園中学校は昨年度も非常に良い結果でした。そこで教育委員会としても花園中の校長に色々お聞きしたところ、特別なことは何もやっていないというお答えでした。ただ、学校を伺って感じるのは、各先生方がプライドを持って、教科に対する子ども達の学力向上は自分の責任だとして、その責任感をひしひし感じる授業を、さきほど井上委員がおっしゃったような発問の工夫、板書の工夫、それが日々行われていると感じました。

また、結果の良かった学校の色々な要素を今聞いています。特に小学校では、プリントボックスとって、進んでいくと段階的に難くなるような問題を、自主的に選んで持っていくように用意して、子ども達が自分で自分の学力を高めようと、そのようなプリントボックスを工夫している学校もありました。やはり、自主学習をどのように子ども達に習慣化させるか、それとあとは授業で教師がどのように子ども達の学力に責任を持って向上していくか、これが重要だと捉えています。

教 育 長

補足します。今、深谷の教員の平均年齢は非常に若返りまして、44歳代に入りました。5～6年前から比べると相当若返りました。花園中はその中で一番年齢が高いです。私の記憶では、53～54才くらいです。その年代の先生が結構頑張っています。ですから、年齢の高い先生方の頑張りというのは、素直に評価してよいのかなと思ひます。そして、それを統率している教頭、校長が、やっぱりよくその辺を見届けているのだと思ひます。

柿沼委員

そうすると、何か特別なやり方だったというよりは、人が違うということでしょうか。

教 育 長

そうした面もあるのではないかなという印象です。

柿沼委員

逆も言えるということでしょうか。

教 育 長

そうですね。若い教員は、若いなりに学校の活性化に繋がっており、大いに教育力の向上に寄与しています。

井上委員 授業のやり方というか、子ども達とどのように向き合うか、そういう姿勢が、やっぱり若い方とある程度の熟練した方では、違いがあるのではないのでしょうか。

あと、どうしてそういう考えになっていくのかきちっと聞ける授業を成り立てていけば、そのところに自分で考えるとか、人の意見を聞くとか、伸びてくると思うのですが、その辺が徹底されている学校と、もうちょっとという学校で差が出てきているのだと思います。

⑦ 報告7 平成26年度深谷市夏季休業中の研修について

委員長 事務局より説明を求めます。

学校教育課長 (概要を説明)

委員長 本報告について、質疑はありませんか。

井上委員 何点か質問・感想をお願いします。研修報告の中の順番でいきます。特別支援関係に大石先生をお招きしての研修会ということで、特に校長・園長さんも一緒に含まれて対応について研修したということで、今後凄く役に立つのだろうなということ、早めの指導体制をとられることを徹底していくと非常に良いのかなと感じました。

それから、10ページですが、参加者の感想の中に「クロス集計の結果から教師と児童生徒の意識に大きな差があることがよく分かりました。」とありますが、例えばどんな差を気づいていたのでしょうか。それから成果等の中の「どの問題にどのような課題が見られたのか、また授業改善のためにどのような視点が必要なのか。」というところで、どのような授業改善を行かなければいけないのかという具体的なものは出てきましたでしょうか。これは質問事項です。

30ページの2年次を対象としたセカンド・ステップ研修の中で、「一年後どのように学級をつくり、どのように授業をしているのか、協議の中で様々な情報が交換され」とありますが、教育委員会から見て2年目の先生の授業力の伸びはどのように感じ取っていらっしゃるのでしょうか。

それから、先程、教務主任や管理職を目指す方又は登載者の研修、これは非常に学校の推進力となる中核的な教員の養成になるかと思いますが、そういう人達の活躍の場をより一層深めていくと学校全体の充実感も出てくるのではないのでしょうか。研修しての感想もありましたら、幾つかお願いします。

学校教育課長 まず、理科教育の研修会での教師と生徒の意識の差ですけども、当然、教師が興味をもって欲しい理科の課題に関して、生徒がそこに同じように興味を持ってくれない場合に、子ども達の声かけとかその場で子ども達にお互い話し合ってもらうだ

とか、そういうようなテクニックによって教員の意図する授業でのきっかけ作りですとか、その辺のところはなかなか難しいので、それを改善するにはどのような工夫が必要かというところでの研修が深まったというところです。

それから、2年次の教員研修を通して見えてきている課題です。最初の1年は体当たりに教員として勤めていた。それが、周りを見て自分の役目を見極めながら仕事を行うようになった。そうしたきっかけになったのは、後輩の存在です。今は若手の先生が学校に多く入ってきますので、1年目の先生を見ながら自分も一緒に成長していくといった2年目の教員の成長の様子が、各学校で見られる場合があります。

また、2年目というところで、なかなか1年目の課題から脱しきれず悩みを抱えている先生がいます。そういった先生の相談役として、先程井上委員のおっしゃった中核となる教員がアドバイスを与えたり、授業を見て助言を適切に行ったりして、若手とベテランの学校での役割が上手く機能している学校が多く見受けられます。そういった中核となる教員を増やして、学校運営全体に興味を持っていただいて、どの教員も学校運営に参画するという意識を学校で育てていただくようにというお願いを、校長会でしているところです。また、ベテランの気持ちに再度火を付けるというところで、若手とベテランとの良い関係をこれから学校で作っていくということが、学校で若手を伸ばす手段という風に捉えています。

井上委員 理科の関係ですが、意識に大きな差があるというところで、果たして教員がその単元の導入実験をして興味付けするわけですけれども、さっき言った領域の系統性とか、これはどこに繋がっているかというものと、子どもが何に興味を持っているかという実態が分かった上で導入実験に入っているのでしょうか。そうでなければ、そういう差が出てくるのではないかと思います。そういう教材研究の深みが足りないのではないかと思います。どうでしょうか。

学校教育課長 先程から井上委員にご指摘いただいている教科の中の特に理科の領域に関する系統性ですが、おっしゃるとおり子ども達が前の授業を思い出して、そこから新しい学習内容に繋げていくといった手法が機能すれば、子ども達と教員の意識の差は解消して行けるものだと思います。そういった領域を系統的に意識して、各学年で次の学年に繋ぐような受け渡しが学校内で上手く機能していくように、理科だけではなく各教科とも研修会の中で進めていきたいと思っています。

- ⑧ 報告 8 幼稚園教諭の保育園体験研修について  
委員長 事務局より説明を求めます。  
学校教育課長 (概要を説明)  
委員長 本報告について、質疑はありませんか。  
(質疑なし)
- ⑨ 報告 9 平成 26 年 8 月末現在の児童生徒の事故等について【非公開】  
【非公開案件につき内容は省略】
- ⑩ 報告 10 平成 26 年 8 月深谷市立小・中学校教員等の発令について【非公開】  
【非公開案件につき内容は省略】
- ⑪ 報告 11 平成 26 年度埼玉県立近代美術館コレクション展 in 深谷について  
委員長 事務局より説明を求めます。  
文化振興課長 (概要を説明)  
委員長 本報告について、質疑はありませんか。  
(質疑なし)
- ⑫ 報告 12 東京オリンピック・パラリンピックバレーボール競技のキャンプ地としての誘致活動について  
委員長 事務局より説明を求めます。  
生涯学習課長 (概要を説明)  
委員長 本報告について、質疑はありませんか。  
(質疑なし)
- ⑬ 議案第 40 号 教育委員会事務局の職員の懲戒処分について【非公開】  
【非公開案件につき内容は省略】
- ⑭ 協議事項 1 子ども・子育て支援新制度に係る深谷市の幼稚園保育料(案)について【非公開】  
【非公開案件につき内容は省略】
- 委員長 本日の議事はすべて終了いたしました。  
次回第 10 回定例会は、10 月 14 日(火)午後 3 時開会です。  
以上で、平成 26 年深谷市教育委員会第 9 回定例会を閉会します。